

日本中国語学会第4回関東支部拡大例会

2010年3月20日(土)

明海大学浦安キャンパス 2201教室

JR京葉線新浦安駅徒歩8分

<http://www.meikai.ac.jp/access/index.shtml>

早春の候、会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度第4回関東支部拡大例会を下記の通り開催することになりました。大河内康憲本学会顧問(大阪外国語大学名誉教授)のご講演および6名の研究発表を予定しております。年度末のお忙しい時期ではありますが、皆様どうぞ奮ってご参加下さい。

日本中国語学会関東支部代表 今井敬子(静岡大学)

問い合わせ先: 例会担当 山田忠司(文教大学)

〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島 3337

文教大学 文学部中国語中国文学科

tyamada@koshigaya.bunkyo.ac.jp

【プログラム】

10:30-10:40 開会式 開会の辞 関東支部代表 静岡大学 今井敬子
開催校挨拶 明海大学 劉 勳 寧

I. 研究発表

- | | |
|-------------|---|
| 10:40-11:20 | 研究発表① 藤井游惟(元国際交流基金海外派遣日本語教育専門家)
「日本漢字「呉音」の原型は山東方言音-漢字音は山東→朝鮮→日本と伝播した-」 |
| 11:20-12:00 | 研究発表② 仇曉芸(東北大学大学院)
「外国語固有名詞とその中国語音声転写の音節数」
[以上 司会: 蔣 垂 東(文教大学)] |
| 12:00-13:00 | 昼食・休憩 |
| 13:00-13:40 | 研究発表③ 李軼倫(東京外国語大学大学院)
「動作の進行・状態の持続を表す副詞“正”と“着”の関係について」 |
| 13:40-14:20 | 研究発表④ 薛芸如(元智大学/東北大学大学院)
「漢語存在句中的動貌標誌」 |
| 14:20-14:30 | 休憩 |

14:30-15:10 研究発表⑤ 平山邦彦 (拓殖大学)

「他的年紀比我大」類の“比”構文について」

[以上 司会：町田 茂(山梨大学)

II. 講演

16:00-17:00 講演

大河内 康憲 (本学会顧問)

演題：「「表現力」について」

司会：楊 凱 栄 (東京大学)

【発表要旨】

研究発表①日本漢字「呉音」の原型は山東方言音

藤井游惟 (元国際交流基金海外派遣日本語教育専門家)

日本漢字の「呉音」という発音の原型は朝鮮音(百濟音)であり、663年の白村江敗戦により日本に大量亡命し、文書事務官として『記紀万葉』の編纂に携わった百濟人達の子孫、日本語が母語化した三世以降の「日本語訛りの朝鮮音」が定着したものである。またその「朝鮮音」の原型は朝鮮半島対岸の山東(遼東)方言音であり、313年に高句麗が半島北部の「楽浪郡」を滅ぼした際に、そこ住んでいた山東方言を話す大量の中国人が、高句麗や百濟に雇われて土着し、朝鮮語が母語化した三世以降の世代の「朝鮮語訛りの山東方言音」が定着したものである。このことを、日本語・朝鮮語・中国18カ所の方言漢字音による『万葉集』の比較発音実験によって証明する。

研究発表②外国語固有名詞とその中国語音声転写の音節数」

仇曉芸 (東北大学大学院)

外国語の語彙が中国語に音声転写される際、言語による音韻体系の違いにより、原語の音節数と中国語で表記された語彙の音節数には違いが生じることが多い。外国語固有名詞の場合についてみると、特にブランド名の場合、転写後の語彙の音節数は一定の範囲の中に抑えられる傾向がある。一方、この音節数の制約が音声転写の際の使用漢字の選択などに影響を与えることもある。本発表では、音節数の観点から、外国語固有名詞の中国語への音声転写に見られる傾向について論じる。

研究発表③表动作进行、状态持续的副词“正”与助词“着”的关系（要旨）

李轶伦（东京外国语大学大学院）

据已有研究可知：副词“正”不能单独用来表示动作进行、持续（如：*他正吃饭。），它在使用上是需要一定条件的。而与此相似，具有相同语法意义的助词“着”出现在一般动词谓语句中也是少数，而且这样的情况多用于描写说明一种背景或场景。

然而，通过对大量语料的分析可以发现：“正”与“着”搭配起来构成“正V着”的形式的话，其使用范围就会变得很宽，用法也较“正”或“着”单独使用时更多样，并且在使用上几乎不受限制。“正V着”的形式为说明一种背景或场景的信息时，可以认为“正”和“着”表示动作进行、持续的语法功能变弱，而更偏重于表示一个时点，相当于“……(的)时(候)”。

研究発表④漢語存在句中的動貌標誌

薛芸如（元智大学/東北大学大学院）

本文は Huang(1987)であげられた四つの存在文のうち三つ、即ち出現動詞が述語の存在文・場所動詞が述語の存在文・経験の存在文について考察する。中国語では経験相のマーカ―「過」と、完了相のマーカ―「了」と、持続相のマーカ―「著」がある。出現動詞の存在文と経験の存在文には「著」が生起しない。そして場所動詞の存在文には「過」が生起しない。存在構文 NP1-V-NP2-XP において、アスペクトマーカ―と XP の間には選択関係が見られる。経験相を表す「過」と完了相を表す「了」が現れる存在文では XP は個体レベルで、持続相を表す「著」が現れる存在文には XP は個体レベルだけでなくステージレベル述語も可能である。本文ではその選択関係は一致関係であると主張する。

研究発表⑤“他的年纪比我大”類の“比”構文について

平山邦彦（拓殖大学）

“他的年纪比我大”に代表される“X 的 N 比 YW”（X/Y は領有者、N は被領有者、W は比較の結果）形式“比”構文は比較文研究の中で注目を浴びたテーマの一つと言える。その代表的な先行研究として、X/Y と N の意味関係から構文の成立可否について論じた马真 1986 が挙げられる。同論文では、成立例と不成立例に関し、詳細なグループ分けと分析が成されている。本発表では、马真 1986 の研究成果を土台として、成立の容認されるグループと不成立のグループでは根本的にどのような差異が存在するのか、という点について考察を行なう。その上で、認知言語学的アプローチから統括的な説明を試みていく。